

【達成状況に関する評価基準】※運営に関する計画の評価基準と同じ
A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【別紙1－加算配付用】

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書(選定校記載用)

(校園コード 572184)

※校園コードを入力してください。

学校名 築港中学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

取組に対する評価状況

学校関係者による評価実施済

1 配付額 574,000 円 → 決算額 520,980 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

・習熟度別少人数授業の効果は表れてきている。平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点は、88.8であり、前年度の83.4より向上して(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと。)
・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率6割以下の生徒を同一の母集団で比較し、2年生は4.5ポイント減少、3年生は2.4ポイント減少となり、いずれの学年も前年度より5ポイント減少はとらなかったため目標を達成できなかった。
・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率6割以上の生徒を同一の母集団で比較し、2年生は4.5ポイント増加、3年生は2.4ポイント増加となり、いずれの学年も前年度より2ポイント増加となり目標を達成した。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(平成30年度 88.8)
・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。
・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
・平成30年度末における生徒アンケートで「ICTを活用した授業に取り組んでいる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。

目標に対する達成状況(取組完了時)

・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。→2年生は、昨年度0.882、今年度0.930。3年生は、昨年度0.951、今年度0.965となり、目標を達成できた。
・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。→2年生は、2.8ポイント減少したが、3年生は、昨年と同じであった。低学力層の学力向上に課題が残った。
・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。→2年生は、8.5ポイント増加し、3年生は、5.7ポイント増加し、目標は達成された。

達成

A

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

習熟度別少人数授業の充実

・国語、数学、英語だけではなく、多くの教科で少人数授業を行い「できる喜び、わかる喜び」を味わえる授業を推進する。
・時間割を工夫して、全学年において、習熟度別少人数授業に取り組み、学力の向上を図る。
・ICT機器の活用に限らず、教具や指導方法を工夫し、プレゼンテーション能力の向上に努めることで、確かな学力を身に付けさせる。

取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

ICTを活用した教育の推進

・ICT支援員を活用し、各教科の特性を考慮した授業づくり研修を教科別に行うことで、デジタル教科書、デジタル教材をはじめとするデジタルコンテンツや電子黒板、プロジェクター、タブレットなどのICT機器を効率的に活用した授業に対するスキルアップを行う。
・全教科で、ICT機器を有効に活用し、視聴覚等に訴える生徒が意欲的・主体的に取り組める教材を開発し、研究授業を行う。
・音楽科、体育科、美術科を含めすべての教科でICT機器を活用した授業に対応するためICT環境の更なる整備を図る。
・プログラミング教育推進のため、ロボットの取り組みを進め、ロボットの操作に興味を持ち、一般のロボットコンテストに参加する生徒を育成し、コンテストで一定の成果を上げることで、すべての生徒

・小・中・高・大学に参加する生徒を育成し、コンピュータで一定の成果を上げること、すべての生徒がプログラミングの重要性を理解し、意欲をもってプログラミング学習に臨める環境を作る。

・大阪市プログラミング教育推進協力校として、区役所や関係機関とも連携しサイエンスカフェなど多く機会プログラミングに興味関心を高める体験型学習や展示発表の取り組みを図っていく。小学校からのプログラミング教育を小中連携して行い、プログラミング教育を9年間のスパンで推進できる環境を

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度末の生徒アンケートにおける「少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・平成31年度末の生徒アンケートにおける「ICT機器や、プレゼンテーションのための教具を使う授業を通じて、自分（グループ）の考えを発表する能力が向上した。」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。（1，2年） ・平成31年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一の母集団に対する達成状況(取組完了時) 	<p>達成</p> <p>A</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度末の生徒アンケートにおける「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすく学力向上につながったと思いますか」と答える生徒の割合を前年度(88%)以上にする。→「授業が分かりやすく楽しい」の設問で肯定的な回答は83.3%にとどまった。 ・平成31年度末における生徒アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を前年度(74%)以上にする。→「まじめに授業に取り組んでいる」の設問で肯定的な回答は96.3%で、授業への興味関心は高まったと考えられる。 ・平成31年度末における生徒アンケートで「ICTを活用した授業に取り組んでいる」と答える生徒の割合を前年度(80%)以上にする。→本年度は98.2%と大きく目標を上回った。 	

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	機器及び 教具購入	教員研修 機器の操作、授業へ の活用について 本格実施					教員 研修 本格実施		教員 研修
効果検証						生徒アンケート の実施と(中間) 分析。3学期の 指導方法の確 認		生徒アンケートの実施 と(分析。チャレンジテ ストの結果分析。 本年度の反省と次年度 の取り組みの確認	

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校 園 コー ド 572184)
学 校 名 築 港 中 学 校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】		委員会使用欄	達成
<p>取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C Tを活用した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT支援員を活用し、各教科の特性を考慮した授業づくり研修を教科別に行うことで、デジタル教科書、デジタル教材をはじめとするデジタルコンテンツや電子黒板、プロジェクター、タブレットなどの I C T機器を効率的に活用した授業に対するスキルアップを行う。 ・ 全教科で、I C T機器を有効に活用し、視聴覚等に訴える生徒が意欲的・主体的に取り組める教材を開発し、研究授業を行う。 ・ 音楽科、体育科、美術科を含めすべての教科で I C T機器を活用した授業に対応するためICT環境の更なる整備を図る。 ・ プログラミング教育推進のため、ロボットの取り組みを進め、ロボットの操作に興味を持ち、一般のロボットコンテストに参加する生徒を育成し、コンテストで一定の成果を上げることで、すべての生徒がプログラミングの重要性を理解し、意欲をもってプログラミング学習に臨める環境を作る。 ・ 大阪市プログラミング教育推進協力校として、区役所や関係機関とも連携しサイエンスカフェなど多く機会プログラミングに興味関心を高める体験型学習や展示発表の取り組みを図っていく。小学校からのプログラミング教育を小中連携して行い、プログラミング教育を9年間のスパンで推進できる環境を作る。 			A
<p>予算内訳 コンパクト書画カメラ 490, 00円×6(普通教室、特別支援教室、理科室)=294, 000円 W i - F i 環境対応プリンター 40, 000円×1 計334, 000円</p>			
<p>期待される効果 既存のICT機器と書画カメラ組み合わせ、日常的に活用させることで教員、生徒の思考の可視化を図る。また、教室に設置したプリンターの活用で、習熟度に応じて、生徒自らが教材を印刷し自主的に学ぶことが可能になる。</p>			

(2)取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	機器及び 教員購入	教員研修 機器の操 作、授業へ の活用につ いて	本格実施			教員 研修	本格実施		教員 研修
効果検証						生徒アンケート の実施と(中間) 分析。3学期の 指導方法の確 認		生徒アンケートの実施 と(分析。チャレンジテ ストの結果分析。 本年度の反省と次年度 の取り組みの確認	

(3)取組内容に対する中間報告

- ☒ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(☐ 他責・ ☐ 自責)
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4)取組内容に対する決算内訳

決算内訳				
11-01書画カメラ	37, 000×6=222, 000	11-01USBアダプタ	978× 5= 4, 890	
11-01プリンタ	32, 000×3= 96, 000	11-01USBハブ	950× 5= 4, 750	
11-01補充インク	2, 100×3= 6, 300	11-01USBケーブル	1080×21=22, 680	
				合計356, 620

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 習熟度別少人数授業の充実 ・ 国語、数学、英語だけではなく、多くの教科で少人数授業を行い「できる喜び、わかる喜び」を味 わえる授業を推進する。 ・ 時間割を工夫して、全学年において、習熟度別少人数授業に取り組み、学力の向上を図る。	委員会使用欄	達成
予算内訳 まなボード 白(A3タイプ) 6,000円×40=240,000円 計240,000円		
期待される効果 ICT機器とアナログ的手法(マナボード)を効果的に組み合わせ、日常的に活用させることで教員、生徒の思考の 可視化を図る。さらに、小グループや学級で協議しそれを発表する活動の促進で学びの協働を推進し、次世代に 必要な情報活用能力やコミュニケーション能力等の汎用的能力を身に付けさせる。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	機器及び 教員購入	教員研修 機器の操 作、授業へ の活用につ いて 本格実施					教員 研修 本格実施		
効果検証						生徒アンケート の実施と(中間) 分析。3学期の 指導方法の確 認	生徒アンケートの実施 と(分析。チャレンジテ ストの結果分析。 本年度の反省と次年度 の取り組みの確認		

(3) 取組内容に対する中間報告

- ☒ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
[大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳			
11-01まなボード	3,500× 5=35,000	11-01交換シート	10,400× 3=31,200
11-01デジタルカメラ	13,000× 3=39,000	11-01補充用インク	2,010× 7= 1,040
11-01リングマウス	5,400× 2=10,800	11-01デジタルカメラ	40,000× 1=40,000
11-01イレーサー	300×10=3,000	11-01マーカー	160×27= 4,320
			合計
164,360円			

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】	委員会使用欄	達成
#VALUE!		
予算内訳 #VALUE!		
期待される効果 #VALUE!		

(2)取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み									
効果検証									

(3)取組内容に対する中間報告

- ☐ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(☐ 他責・☐ 自責)
[大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

#VALUE!

(4)取組内容に対する決算内訳

決算内訳

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】	委員会使用欄	達成
#VALUE!		
予算内訳 #VALUE!		
期待される効果 #VALUE!		

(2)取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み									
効果検証									

(3)取組内容に対する中間報告

- ☐ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
[大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

#VALUE!

(4)取組内容に対する決算内訳

決算内訳

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。